



真宗大谷派 存明寺通信

NO.194

2020年(仏歴2551年)1月1日発行



新しい年が明けました。
本年もどうぞよろしく
お願いいたします。

二〇二〇年元旦

真宗大谷派 存明寺

このたびのご縁は

初事はつことと思うべし

このたびのご縁は

我一人われひとりの為と思うべし

このたびのご縁は

今生最後こんじょうと思うべし

昨年ついに還暦を迎えました。六十歳です。六十
年も生きていると、だいぶこの娑婆の生活に慣れて
きたようです。だからでしょうか、一年が過ぎてい
くのも、かなり早くなったように感じてきます。

残りの人生の方がはるかに短くなってきました。
私の父は寿算六十八歳でしたから、仮に父の年齢ま
でだとすると、あと八年。八十までだったらあと二
十年、もっと短いかもしれません。私のいのちは確
実に終わりに向かっています。

普段、なかなかそうは思いませんが、実はこの世
のご縁や出来事は、いつでも「初事」つまり、初め
てのことであり、「我一人の為」、他ならぬ私ひとり
の為のことであり、そして「今生最後」この世では
もう最後のことであるということです。

今年も一年、いろいろなことが起こることでしょう。
それらのことは、実は初事であり、我一人の為
であり、今生最後のことなのかもしれません。

今年出会うであろうご縁を、ていねいにいただき
ながら、この一年を生きていきたいものです。

(住職)

なむあみだぶつ
南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味を訪ねていこう

二〇二三年に京都・東本願寺で「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」という大きな法要が行われます。

親鸞聖人が誕生して八百五十年、浄土真宗が誕生（立教開宗）して八百年、その時をお祝いする法要のことです。その法要のテーマが発表されました。それが「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味を訪ねていこう」です。

人として生まれたことには、実は大きな意味があるということです。その意味を、仏教の教えや親鸞聖人の言葉を訪ねてみたいと思います。

親鸞聖人の名著『教行信証』には「人」という言葉が3回出てきます。

人は西に向かう

ひとつ目は「人ありて西に向かいて行かんと欲するに百千の里ならん」（信巻219）西とは単なる方角ということではありません。西方浄土、つまり目覚めて生きていきたいということ。この世を生きる誰もが、実は心の奥底で願っていること、それは、目覚めながら生きていきたいということ。そういう心を宿すもの、それが人間なのだと思います。

痛み悲しむ心を大切に

ふたつ目は「無慚愧は名づけて人とせず、名づけて畜生とす」（信巻257）それは、痛みや悲しむ心を大切に、ということ。私も還暦を迎えました。六十年も生きてきて、今響いてくる言葉に次の

言葉があります。「長いこの世の旅では自分も傷ついたが人も傷つけた」（榎本栄一）まさに私の今までの歩みを言い当てた言葉のように感じ、身に響いてきました。痛みや悲しむ心を大切に。人とはそのように呼びかけられている存在なのではないでしょうか。

こびない へつらわない

三つ目は「人いづくんぞ能く鬼神に事えんや」（化身土巻末398）という言葉です。この言葉、もとの意味は「鬼神に事えんか」という問いに対して、「いいえ、人間にできえおつかいできないのに、まして鬼神様につかえることなどできません」という意味の言葉でしたが、親鸞聖人はこの言葉を読み替えています。ちなみに鬼神とは、自分より大きく強い力を持つた存在という意味です。時の権力とか場の空気と受け止めてもいいでしょう。

親鸞聖人は言います。人は鬼神などに使えてはならないのだと。それは、「こびない、へつらわない、

支配されない」ということです。たとえどのようなことが起こったとしても、それを私の大切な人生として受け止め、自分が人生の主体となって生きていくということでしょう。

やがて二〇二三年に慶讃法要が行ってきます。二〇二五年には東京教区でも同様の法要が行われます。そしてここ存明寺でも二五年以降に慶讃法要をお勤めしたいと考えています。

お寺で行う法要ではありませんが、その法要を、「私にとっての慶讃法要」としてお迎えしていきたいと強く願っております。

慶讃法要、それはこの世を生きるこの私が、様々な苦悩を抱えるけれども、それを大きな縁として、教えに出遇うために開かれる法要です。そして、今を生きるこの私が、親鸞に出遇うために行われる法要なのです。（住職）

お寺の写真館



↑親鸞聖人に集う報恩講法要



↑講師の金石潤導先生(北海道教区)



↑報恩講法要での讃歌『回向』の唱和



↑住職の「還暦を祝う会」での集合写真



↑こども食堂 みんな一緒にハイポーズ

■親鸞聖人に集う報恩講

11月上旬の2日間、北海道より金石潤導先生をお迎えし、親鸞聖人の報恩講法要が行われた。連日大勢の方々が参詣された。

親鸞聖人を偲びつつ、法要や法話、門徒感話やお斎などが行われた。金石先生は「人間獲得」という講題で、様々な具体例を交えながら、親鸞聖人との出遇いを熱く語られた。

■門徒感話御礼

井上憲司さん(存明寺世話人)
藤井良子さん(存明寺世話人)

■金石潤導先生語録

*お寺は大事などころ。仏様の前で人と人が出会おうところ。往生極楽の道を尋ねていくところ。
*旅行・温泉・おいしい食べ物：それは外からくる楽。それを尽くしても、本当の満足は得られない。
*同じ場所に立って同じ道を歩む時、人は人に出会う。
*浄土という方向を向いて歩んでいきましょう。

■住職の還暦を祝う集い

12月中旬、存明寺ご門徒有志の方々が企画してくださり、住職の「還暦を祝う会」が行われました。40名近い方々がご参集くださいました。

当日は存明寺客殿の中にカウンターなどが用意され、いつもと違う雰囲気の間が出来上がりしました。

乾杯・感話タイム・住職あいさつ・感謝状・福引・カラオケなどで大変楽しい時間を過ごさせていただきました。皆様、誠に有難うございました。

■ぞんみょうじこども食堂

昨年9月で4周年となりました。毎回スタッフ10名を含め80〜90名の方々が近隣から集まってこられます。特製キーマカレーとふれあいタイムを、皆さん満喫しておられます。

■グリーンフェアのつどい

大切な方を亡くした人々のつどい、こちらも12周年となりました。今までの開催は50回、延べ参加者数は793名になりました。仏様の教えが人間を照らす、そんなあたたかな居場所を目指しています。

お寺のひろば 2020

1月1日(水)	10時	修正会 しゅしょうえ
3月7日(土)	14時	樹心の会 じゅしん
3月13日(金)	13時	清掃の日
3月20日(金)	11時と13時	春のお彼岸法要 ひがん
3月28日(土)	14時	グリーンフケアのつどい じゅしん
4月18日(土)	14時	樹心の会 じゅしん
(東京五組同朋大会に参加)		
4月25日(土)	10時	おみがきのつどい えいたいきょう
5月3日(日)	12時	永代経法要(荒山淳師) じゅしん
5月16日(土)	14時	樹心の会 じゅしん
6月13日(土)	14時	樹心の会 じゅしん
6月27日(土)	14時	グリーンフケアのつどい にいほん
7月4日(土)	11時	新盆法要 ぼん
7月12日(日)	11時と13時	お盆法要 ぼん
8月29日(土)	午後	青年のつどい じゅしん
9月12日(土)	14時	樹心の会 じゅしん
9月18日(金)	10時	清掃の日
9月22日(火)	11時と13時	秋のお彼岸法要 ひがん
9月26日(土)	14時	グリーンフケアのつどい じゅしん
10月10日(土)	14時	樹心の会 じゅしん
10月24日(土)	10時	おみがきのつどい ほうおんこう
11月2日(月)	14時	報恩講のゆうべ ほうおんこう
11月3日(火)	12時	報恩講法要(田中顕昭師) ほうおんこう
11月14日(土)	14時	樹心の会 じゅしん
11月28日(土)	11時	存明寺帰敬式 ききょうしき
12月12日(土)	14時	樹心の会 じゅしん
12月19日(土)	14時	グリーンフケアのつどい じゅしん

★どうぞお気軽にご参加下さい。

春のお彼岸(ひがん)法要

3月20日(金・春分の日)

10時半 無量寿廟法要
むりょうじゅびょう
11時 本堂にて法要と法話 午前の部
13時 本堂にて法要と法話 午後の部
※入場無料(2回)
場所 真宗大谷派 存明寺
内容 正信偈の唱和・お話
お話 酒井義一住職とご門徒有志
※一回30分程度。ご参詣ください。

親鸞聖人に人生を学ぶ(上半期)

樹心(じゅしん)の会

3月7日(土)13時半
4月18日(土)13時半
5月16日(土)13時半
6月13日(土)13時半

会場 真宗大谷派 存明寺
会費 500円(茶菓子の接待付き)
お話 酒井義一住職と門徒有志
内容 勤行練習・勤行・お話・
語り合い・全体会

※4月は東京五組主催の「同朋大会」に参加します。

【あしがき】

▼気が付けば還暦になりました。振り返ってみれば、あつという間の出来事だったような気がします。時の流れは年を追うごとに早くなっているかのようです。きっとこの娑婆の生活に慣れてきてしまったからなのでしょう。

▼巻頭言にある「初事・我一人の為・今生最後」、なかなかそのようには受け止められないのが私たち人間ですが、そのような私だからこそ、「そのご縁はね、初事・我一人の為、今生最後なんだよ」と呼びかけられているのかもしれない。

▼ていねいに、ていねいに、この一年を生きていきたいと思えます。(住職)



東京都世田谷区北鳥山4-15-1

真宗大谷派 存明寺

住職 酒井義一(釋諦信)

F-157-0061 TEL 03-3300-5057

FAX 03-3300-5880

E-mail : sakai@zomyoji.jp